

オシドリ  
 ・ガンカモ目  
 ガンカモ科  
 全長45cm

＝冬が来る＝

# カモ を楽しむ

秋になると、沢山のカモたちが、冬越しのために北国から、日本に渡って来ます。チラッ、チラッとしか観察できない山野の鳥に比べ、カモ類は、見通しのきく水面に群れている場合が多く、姿・色・行動までをじっくり、楽しむことができます。フィールドマーク(イ)も明らかで、体も大きいため、初心の人でも、識別が容易にできます。ここでは、エクリプス羽(ロ)の雄や、地味な雌の識別は、ベテランにまかせるとして、まずは、美しい羽をする時期の雄だけにしぼって、観察してみようではありませんか。

- (イ) フィールドマーク 鳥の外見上の特徴の中でも、特に目立つもの。
- (ロ) エクリプス羽 求愛用の美しい羽色が、繁殖後、地味になった状態で、カモ類の雄特有の羽色。

## 主なカモのフィールドマークは

### 1. カルガモ

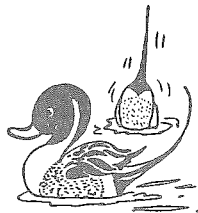
全国に、一年中います。今年の夏、皇居での親子連れが、マスコミでとりあげられ、一躍、有名になりました。全体が褐色で、他種の雌に似ていますが、黒いくちばしの先端が黄色いことで区別できます。また、本種は、雌雄同色です。

### 2. コガモ

カモ類のなかで最も小さく、漢字では“小鴨”と書きます。栗色の頭部に、緑色のアイマスク模様、尻の脇にあるベージュの三角形(パンツと言う人もいます)も遠くから目立ちます。

### 3. オナガガモ

英名 Pintail の語感から、ピンととがった尾と連想すれば、そのまま、このカモの特徴になります。こげ茶色



オナガガモ  
 ・ガンカモ目  
 ガンカモ科  
 全長75cm

の頭に、のどから耳の後ろにまでくいこんだ白い線も目立ちます。

### 4. マガモ

現代でも、「青首」と一部の人はいいますが、鳥好きの人は正しく、マガモと呼びます。頭部は日光にあたると、緑色の光沢を放ち、黄色いくちばし、白い首輪模様と相まって、見あきることがありません。それ故、“真鴨”と書くのでしょうか。

### 5. ハンビロガモ

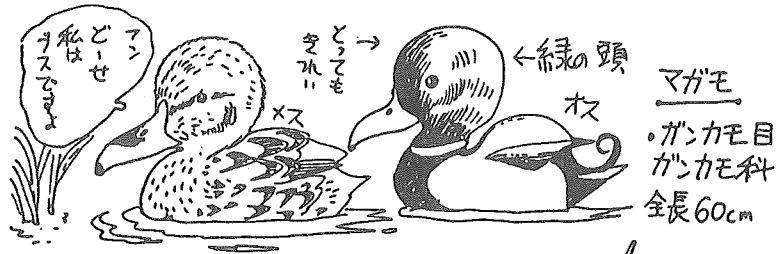
くちばしがシャベル状にひろくなっている鴨(英名 Shoveler = シャペラー)です。緑色の頭部、白い胸、赤茶っぽい脇腹も特徴です。ドナルド・ダックのモデルはこのカモだ、という人もいます。

### 6. ヒドリガモ

赤色の頭にクリーム色のモヒカンカット。勇ましいようですが、可愛らしい顔をしており、個体によっては、緑色光沢のアイシャドウをしたオシャレもいます。ピューンという鳴き声もよく聞くことができます。



以上のカモを識別できれば、リーダーとともに、参加者に教えてあげてください。ついでに、次の2種が識別できれば、県内では大体、カバーできます。



7. ホシハジロ

赤茶の頭をしているので、一見、ヒドリガモに似ていますが、モヒカンカットがなく、黒い胸と白っぽい体、それに赤い目で、区別できます。

8. キンクロハジロ

目が金、背が黒、羽が白だから、キンクロハジロと教わったことがあります。ちょこんと後髪をつけているように見える冠羽が愛敬です。

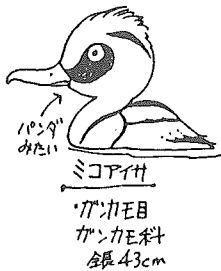
これら8種以外のカモは、県内では珍しいのです。発見された人は、支部へぜひ、ご一報ください。

オオヤカ  
・ガンカモ目  
ガンカモ科  
全長♂50cm  
♀56.5cm



カモ類の越冬する主な探鳥地は

森林公園山田大沼、狭山湖、久喜菖蒲公園、利根川阪東大橋などでは、毎年、数千羽のカモ類が飛来し、越冬しています。特に、狭山湖では、カモの種類も豊富(ミコアイサが来ます)で、それをねらうワシタカ類、さらに各種のカイツブリ類と、楽しみがいっぱいで



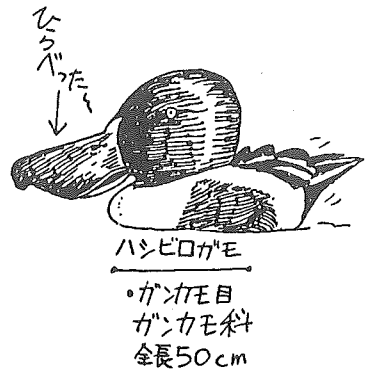
す(西武球場前下車、徒歩15分)。

しかし、これらの探鳥地へわざわざ出かけてなくても、私たちの身近にある調整池や川、沼などにも結構、カモは来ているものです。例えば、昨年末、県内では初認のシノリガモは、浦和市の調整池掘削工事現場の池で観察されたのです。

体中、虫いだらけの  
もよう



カモを短時間で識別できるようになりたい人には、冬期、上野の不忍池へ行くことをお勧めします。ここでは、野生のカモが何千羽も群れており、それらが足もとまで近寄ってくるので、肉眼でじっくり観察できます。さらに、イソップ橋下辺りには、カモを説明してくれるボランティアの人(青い服を着用)が、11月から翌年3月ごろまで待機しており、楽しい説明をしてくれます。



(カット・比企 裕)